

2学期始業式 式辞

皆さん、おはようございます。近年、記憶にない程の豪雨に見舞われた夏休み後半でした。日本各地の甚大な被害に胸を痛めつつも、今朝正門で皆さん一人一人と久しぶりにあいさつを交わし、「自分から」「爽やかに」あいさつをしてくれる姿、その姿からたくさんの元気をもらいました。高中の誇るべき校風です。1学期終了時には2年生1名の転出がありましたが、新たに1年生に1名の転入生を迎え、152名で元気に2学期のスタートをきれたことをうれしく思います。

この夏休み中は、吹奏楽コンクール県大会で、“心を一つ”に素晴らしい演奏を披露し銀賞に輝いた吹奏楽部の皆さんや、少年野球全国大会で、並み居る強豪を撃破しベスト16の健闘を見せてくれた高嶋陽稀くん、そして東北中学校剣道大会に県代表として出場し大健闘だった武田怜紋さんなど、高中生の大活躍が光りました。また、連日30度を超える猛暑の中、体育館や武道館、グラウンドで元気に部活動に励む1・2年生の皆さんの姿から、市中新人大会への意気込みが感じられました。3年生の皆さん

は、三者面談や学習会、高校のオープンスクール等、将来を展望し自分と向き合うことが多かった夏休みだったことでしょう。運動会の実行委員や軍幹部の皆さんは、コロナ感染拡大防止のため制約が多い中、全校生が感動を味わえる運動会にしたいと、昨年以上に限られた時間で智恵を絞り、準備を進めてくれました。ありがとうございます。本番まで残すところあと二週間。意見がまとまらなかったり、思うようにことが運ばなかったりと、気苦労もあるでしょう。ですが、それを乗り越えたところに感動があります。充実感は、がんばったその努力に比例して感じられるものです。ぜひみんなの思いを繋ぐ「強力一致」の運動会を、自分たちの手で創り上げて欲しいと思います。

夏休みを終えた今、皆さんはどんなことが印象に残っていますか。自分の夢や目標に向け、「一歩踏み出す夏休み」になりましたか。印象的なことと言えば、東京オリンピックが開催され、テレビの画面越しにたくさんの感動とともに勇気ややる気をもらった人も多いのではないかと思います。閉幕後も、東京オリンピックを裏方で支えたボランティアの方々への感謝の声が世界各国で鳴りやまないことも深く心に残ります。掃除や消毒、競技の後片付け、あるい

は、バスを乗り違えた海外の陸上選手へのスタッフの“神対応”等、コロナ禍での「手間を惜しまない」多くの見えない「おもてなし」の積み重ねがあったからこそ、東京オリンピックの感動があったのかもしれませんが。

さて、2学期は、1年間で一番長く、そして最もやりがいを実感できる「成長の学期」です。今週末の資源回収や来月4日の運動会をはじめ、3年生は待ちに待った修学旅行、1・2年生は市中新人大会、そして11月には合唱コンクールと、大きな行事が目白押しです。2学期は「なりたい自分」や「つくりたい校風」づくりにふさわしい学期と言えます。

そこで、2学期の始業にあたり、皆さんに贈りたいことばがあります。それは、「明るく、元気に、前向きに」「手間を惜しまない」です。

東京オリンピックで印象に残る快進撃を支えたもの、それは「明るく、元気に、前向きな」チームの雰囲気・一体感だと感じます。重圧の中でも、“楽しんで”力を発揮することができる、そのための「大切な土台」だと思います。学級も学年も、そして学校も、

明るく、元気で、前向きなムードを、ぜひ、1学期以上に、一人一人が意識して創っていきましょう。

そして、「手間を惜しまない」…面倒だなと思うことを、手間を惜しんで流してしまうと、後々、逆に無駄や面倒が多くなるものです。メールで済ませば楽なことも、大切なことは「面と向かって自分の言葉できちんと伝える」、あいさつも面倒がらずにできれば「笑顔を添えて」、ありがとうの感謝の言葉にも具体的な自分の思いを「一言添える」ひと手間…人と人との良い関係・絆づくりは、こういった「ひと手間」の積み重ねだと思ふのです。日常生活の中でのコラム学習でも、掃除でも、係活動でも、授業での学び合いや家庭学習・受験勉強でも、行事の準備や運営でも、決して手間を惜しまない。「これぐらいでいいかぁ」と思っている「その一歩先」まで考えたり、相手を思いやった言動をとったり、より良い生き方のために頭を使って日々小さなことでも工夫して実行していく。その「ひと手間」には、「見えないところで手を抜かない」という自分自身への誠実さと、相手を思いやった「気遣い・やさしさ」がこもっているのですから。

さあ、86日間の2学期のスタートです。「明るく、元気に、前向きに」そして「手間を惜しまない」をキーワードに、「なりたい自分」や「つくりたい校風」づくりへの、大いなる躍進の学期にしましょう。